

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：太陽の子長津田北保育園	種別：保育所	
代表者氏名：園長 加藤 はるみ	定員（利用人数）： 66名	
所在地：神奈川県横浜市緑区長津田3-1-40		
TEL：045-988-6820	ホームページ： https://www.kidslife-nursery.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2014年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：HITOWAキッズライフ株式会社		
職員数	常勤職員： 16名	非常勤職員： 3名
専門職員	保育士 16名	栄養士 2名
	調理師 1名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	ほふく室 保育室・調理室・調 乳室・事務所兼医務室	バリアフリースイレ・園庭・沐浴室・ 非常階段・エレベーター

③理念・基本方針

保育理念

～のびのび、すくすく、にこにこ～

子どもたち一人ひとりがたくさんの“大好き”に出会えるよう、こころとからだをすこやかに育てゆきます。

保育方針

安心できる人間関係の中で、一人ひとりの違いを認めながら生活します。

整った保育環境の中で、仲間と喜びのある生活をし、自らルールを発見し社会性を育みます。

様々な経験や人との関わりの中で、自ら好きなものを発見し、健全な心身の発達を図ります。

いろいろな違いを体験する中で、広い視野をもった子どもを育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

・絵本のとりくみ

絵本巡回図書館として2か月毎に新しい絵本が届き、年齢毎の本に触れる事が出来ます。

又、ながりBOOK POSTとしてご家庭で読み終わった絵本を国内外に定期的にプレゼントしてます。

・食育のとりくみ

園庭で野菜作り パケツ稲の栽培、収穫の体験やグリーンカーテン作りクッキング 絵本や歌とのコラボメニュー 行事食メニュー 郷土料理 世界の料理等を通じて食を営む力を目標としてます。

・英語のとりくみ

月2回 0～5歳児対象 外国人スタッフによる英語に触れる経験

・「リズムモン」を導入

オリジナルプログラムを基にオンラインによるレッスンや保育園スタッフがリズムモンダンス研修で学び、日常の保育等で取り入れて活動しています。

・おそうじプログラム おそうじ本舗のスタッフに雑巾の絞り方等教えてもらい、プロの掃除体験をすることによって意識が高まり、公園の美化活動や清掃活動に繋がっています。(キッズお掃除チャレンジ)

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月21日（契約日） ～ 2022年2月18日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成28年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

保育の質の向上にむけて意欲的に取り組んでいる

園長は、毎月で開催される法人内の園長会議に出席しているほか、法人内の地域園長会議や法人外での地域園長会議にも出席し、児童福祉事業全体の動向をはじめとする法令や制度、地域での動向なども把握するように努めている。それらを踏まえたうえで、毎月、法人よっての試験を実施し、理解の確認をしている。また、その内容を園内のスタッフ会議や園内研修などで、職員間で共有化を図っている。日々の学びを園内で共有化することにより、園の保育の質の向上に繋げるように努めている。

子どもが主体的に活動できる環境を整備し、生活と遊びを豊かにする保育を展開している

駅に近い立地にありながら、園庭があり近隣にも自然豊かな公園があり散歩出かけ四季を感じられる環境にある。保育室では生活と遊びコーナーを区切り、子どもが自ら遊びを選択し生活自立を促せる設備と配置に工夫をしている。保育士は研修を行い主体的保育の取り組みについて学び合い、子どもの心身の育ちを育ていける環境づくりに力を入れて取り組んでいる。

食に関する豊かな経験ができるよう、食育計画を位置づけ取り組みを行っている

毎月の郷土料理と世界の料理では、日本の地域と各国のメニューを食することで食文化に触れられるようにしている。また、絵本のメニューは、目で見て楽しめる食事、和食の日は、日本食の所作を体験し「食の楽しさ」を感じられる工夫をしている。園庭の畑では食物を育て、作って食べるまでの体験を通して、子どもが食に興味を持ち命の大切さや感謝の気持ちなどを感じ取ることができるように、様々な取り組みを行っている。

◇改善を求められる点

事業計画を保護者にわかりやすく伝える工夫について検討されたい

園での年間事業計画書は、法人の理念や基本方針を反映させて、前年度の課題を踏まえたうえで、法人と連携しながら作成を行っている。年度末の保護者会には年間事業計画の説明を口頭で行ったり、入園説明会では、年間事業計画の内容を抜粋しての説明なども行っている。年間事業計画は保護者に対する説明は行っているが、目にみえる形として、掲示や配布などの検討などもされたい。

地域の子育て家庭にむけて、交流や相談が気軽にできるような方法について検討している

地域の子育て家庭にむけて、定期的に園庭開放などを実施し交流や相談等の援助につなげていたが、コロナ禍においては、保育交流や子育て相談が行えていないことを課題としている。孤立する家庭が、子育て相談、育児において困りごとなど気軽に出来るシステムや社会情勢に合わせた対応方法について検討している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審に当たり、保育内容や問題点を見直し、子どもにとってより良い保育を目指す為に、とても良い機会となりました。

保育士・栄養士・主任・園長とで日頃の保育を振り返り、現在の保育の良い点、改善点が見いだされ、今後の保育の見直しと目標を再確認できました。

コロナ禍ということもありましたが、課題としては、地域に開放し交流を深め、「つながり保育」としての役割を果たすこと、また、今後もスタッフ全員で、一人一人の子どもたちの心に寄り添い、子どもの育ちを保護者の方々と「共育て」に取り組んで参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり